

(4) 社会学教育における学士力の考察

CCC社会学運営委員会は、21年6月、7月、9月、10月、11月の5回開催した。社会学の分野では、社会の現状を科学的に調査・分析し、あるべき姿についてビジョンを持ち、行動することができる力を視点とした。そのために必要なフィールド学習と座学のバランス、発見、ミクロ、マクロ、調査、提言の観点から具体的な到達度を検討した。その上で、サイバーFD研究員214人に意見を求め、11人(5%)の意見を踏まえ、以下の通りとりまとめた。ここでは、「コア・カリキュラムのイメージ」、「測定方法」を割愛したので、詳細は資料編【資料5】を参照されたい。

【到達目標1】

社会における様々な問題に関心を持つとともに、通常は見過ごされている現象を社会的な問題として発見する視点を持つことができる。

【到達度】

- ① 社会学でこれまで何が問題とされ、どのような視点で研究されてきたかについて理解している。
- ② 「当たり前」とされている現実を改めて疑問視し、見過ごされている現象を問題として認識する姿勢を身に付けている。
- ③ 社会的な問題になり得る事象について、適切なアプローチ方法を検討することができる。

【到達目標2】

社会秩序を形成・存続・変容させる日常の営みについて、基礎的な理論を踏まえて理解できる。

【到達度】

- ① 人間の自我やアイデンティティがコミュニケーションを通じて形成される過程を理解している。
- ② 相互行為やコミュニケーションによって秩序が形成・存続・変容する仕組みを理解している。
- ③ 社会秩序の持つ権力性と秩序からの逸脱の持つ問題性を把握できる。

【到達目標3】

現代社会の成り立ちと変動を産業化、都市化、情報化といった歴史的な枠組みから捉え、社会現象をこれらとの関連において理解することができる。

【到達度】

- ① 社会の構成要素とその機能の関連を構造的に把握する理論的な枠組みを持つことができる。
- ② 現代の社会現象を産業化、都市化、情報化といった歴史的変動の中で理解している。
- ③ 「ミクロ」な現象を「マクロ」な構造変動に繋げる社会学的想像力を身に付けている。

【到達目標4】

社会的な問題に対し、現場の視点に基づいた実証的な調査によってデータを収集し、根拠のある分析をすることができる。

【到達度】

- ① ある社会問題・社会現象について、実証的な方法による調査計画の立て方を身に付けている。
- ② 量的調査、質的調査の基本的な方法論に基づいた調査・分析スキルを身に付けている。
- ③ 社会調査の調査倫理を身に付け、フィールドとの適切な関係を作ることができる。

【到達目標5】

社会の在り方についてヴィジョンを持ち、社会的な問題の解決に向けた提案を行うことができる。

【到達度】

- ① 社会の現状をもとに、将来の社会を構想することができる。
- ② 構想を踏まえて調査・分析を行い、その結果から問題の解決策を導くことができる。
- ③ 研究の成果を広く社会に発信する方法を身に付けている。

(5) 社会学教育における情報教育

CCC社会学運営委員会は、学士力考察をとりまとめの後、22年1月に1回開催した。検討では、社会的な問題についての情報の所在と検索、情報倫理と情報の信頼性の識別、実証データの整理・加工、分析・評価、コミュニケーションに適切なメディアの選択・利用、情報の管理などをとりあげた。

【到達目標1】

社会的な問題について、多様な情報を適切に収集・整理し、相対的に捉えることができる。

【到達度】

- ① 多様なフィールドやメディアに遍在する情報について、その所在・構成・背景を知っている。
- ② 情報の信頼性を識別でき、情報の剽窃に関する倫理を身に付けている。
- ③ 情報検索とソフトウェア(ワープロ、表計算)などの基本的な情報処理能力を身に付けている。

【教育内容・教育方法】

- ①は、実際にWebにアクセスさせて、社会的な問題に関する映像・画像・ファクトデータなどの重要性を理解させるとともに、フィールドや文献との関係を理解させる。
- ②は、講義などにより、信頼性と倫理について、具体的事例を通じて理解させる。
- ③は、初年次教育などで基礎的なスキルを身につけるとともに、実際に使用させレベルアップを図る。

【到達度確認の測定手段】

- ①～③は、レポート、小テスト、プレゼンテーションなどで確認する。

【到達目標2】

収集した情報をもとに、社会的な問題についての実証的な分析をすることができる。

【到達度】

- ① 収集した情報を分析に必要なデータの形にするために整理・加工することができる。
- ② 量的データ・質的データを分析する機材やソフトを使用できる。
- ③ 分析結果について批判的に捉えることができる。

【教育内容・教育方法】

- ①と②は、演習科目・調査科目などにより、収集したデータの整理・加工と分析を自ら体験させる。
- ③は、上記を受けて、事例をもとに分析結果の比較・検討を体験させる。

【到達度確認の測定手段】

- ①～③は、テスト、レポート、プレゼンテーションなどにより確認する。

【到達目標3】

情報通信技術を活用し、研究成果を発表し、発信することができる。

【到達度】

- ① 適切なメディアを利用して、研究成果を発表することができる。
- ② 情報通信技術の特性に応じて、適切な批判・評価・コミュニケーションを行うことができる。
- ③ 発表内容に関する情報を適切に管理することができる。

【教育内容・教育方法】

- ①と②は、演習・卒業論文・報告会・合評会などにより、課題研究の成果を適切なメディアを通じて発表させ、他の発表に対して評価・コメントをさせる。
- ③は、事例研究を通じて、情報を共有し、ディスカッションさせる。

【到達度確認の測定手段】

- ①～③は、レポート、プレゼンテーション、論文などにより確認する。